俳諧

かれ枝に烏のとまりけり秋の暮　　松尾芭蕉

大津に至る道、山路をこえて

山路来て何やらゆかしすみれ草　　松尾芭蕉

病中吟

旅に病んで夢は枯野をかけめぐる　　松尾芭蕉

春の海ひねもすのたりのたりかな　　与謝蕪村

五月雨や大河を前に家二軒　　与謝蕪村

牡丹散つてうち重なりぬ二三片　　与謝蕪村

有明や浅間の霧が膳をはふ　　小林一茶

十二月二十四日、故郷に入る

これがまあつひの栖か雪五尺

小林一茶

蛙戦ひ見にまかる、四月二十日なりけり

小林一茶

痩せ蛙まけるな一茶これにあり